# 6 内田　樹『街場の教育論』

感情があって言葉が出るのか、言葉があって感情が形成されるのか。これはむずかしい問いですけれど、「言葉が感情を作り出す」メカニズムについて、私たちはもう少し理解を深めるべきではないかと思います。

「　　　　　　」と言いますが、言うつもりのなかった言葉が思わず口に出て、その言葉が強い反発を引き起こし、それに対してまた言うつもりのなかった言葉でⓐオウシュウして、いつのまにかⓑシュウシュウのつかない＊になった……ということはどなたもご経験があると思います。こういうとき現実の人間関係を決定するのは、「そんなこと思っていなかった」という内面的真実ではなくて、実際に口に出されてしまった言葉のほうです。「そんなつもりで言ったんじゃないんだ」という後からの言い訳は、その言葉によって現に怒ったり、傷ついたりした人がいる以上、通りません。

現実の人間関係では「内面」よりも「言葉」が優先的に配慮される。これは当たり前ですね。でも、①個人においても同じことが起きていると私は思います。「内面」よりも「言葉」が実は個人でも優先している。私たちが怒るとき、あまり怒りの感情が高まってこないとき、私たちはを強める。怒声を張り上げる。そうすると、自分が口に出した言葉につられて、内面の怒りの感情が沸騰してくる。まず、怒りの感情が内面にあって、それがふさわしい言葉を選んで表出されるのではなく、ある言葉を選択したことによって、その言葉にふさわしい感情が内面に形成される。「愛してるよ」というのも同じです。別に内面に沸き立つような愛情がなくても、②「愛してるよ」と言い続けて、その言葉にふさわしい＊立ち居ふるまいをしていれば、相手だって気分がいいから、当たりが柔らかくなり、ⓒキヅカいも生まれ、関係が良好になる。そうなると、こちらも気分がいいから、相手をおしむ気持ちが内面にⓓジョウセイされてくる。そういう経験はどなたもおありだろうと思います。

これを「の力」と言ってもいいと思います。言葉にはそれだけ人間の内面を操作する力がある。けれども、③国語教育関係者の方々は果たしてこの「言霊の力」というものに十分に配慮されているであろうか。私にはどうもそのようには思われない。

まず「内面」に「言葉になる前の思い」があって、言葉はその不完全な媒体であると考えているのではないか。言葉は「不完全な媒体」である。これを改良すれば、「思い」の運搬具として性能がよくなり、「思いを伝えられるようになる」、そのようにお考えになっているのではないか。

語注

修羅場＝激しい闘争が行われている場所。

立ち居ふるまい＝日常のいろいろな動作や身のこなし。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓓのカタカナを漢字に直せ。（3点×4）

ⓐ〔　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　い〕　ⓓ〔　　　　　　　〕

問2　空欄に入る語句として最も適当なものを次から選べ。（8点）

ア　口八丁手八丁　　　　　イ　売り言葉に買い言葉

ウ　ああ言えばこう言う　　エ　沈黙は金、雄弁は銀

〔　　　〕

問3　傍線部①「個人においても同じことが起きている」とあるが、具体的にどういうことか。最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　相手の気持ちに配慮しながら話すと適切な言葉が見つかるように、自分の内面的真実を表現するために言葉を探すとよい言葉が見つかる。

イ　余計なことを言って相手を傷つけることがあるように、考えもしなかったことを言ったために思いがけず人の恨みを買うことがある。

ウ　ののしり言葉を口にすると怒りが倍増するように、口論で怒りの気持ちを表現すると、シュウシュウのつかない修羅場になることがある。

エ　言うつもりのなかった言葉が人を傷つけることがあるように、無意識に出た言葉が思いがけず発言者自身の感情を呼び覚ますことがある。

〔　　　〕

問4　傍線部②「常住坐臥」と同じ意味の語句を次から一つ選べ。（8点）

ア　四六時中　　イ　諸行無常

ウ　一日千秋　　エ

〔　　　〕

問5　傍線部③「国語教育関係者」の考え方はどのようなものだと筆者は述べているか。最も適当なものを次から選べ。（12点）

ア　感情ははかなく一時的な性質を持つので、言葉によって形を与えられるべきである。

イ　言葉は内的感情を語ることができるので、な言葉でも他人に十分に伝えることができる。

ウ　言葉は感情を表現する道具なので、感情のより良い伝達のために改良されるべきである。

エ　感情は言葉によって作り出されるので、本当の感情を明確にすることは不可能である。

〔　　　〕

練習問題〈ことわざ〉

次の空欄に入る動物をそれぞれ後から選べ。

①　（　　）も杓子も

だれもかれも、どれもこれも。

②　飼い（　　）に手をかまれる

かわいがっていた者から害をうけること。

③　（　　）の耳に

忠告や意見を聞き入れようとしないこと。

④　（　　）の涙

非常に少ないこと。

⑤　（　　）につままれる

何がなんだかわからなくなること。

⑥　（　　）に見こまれた（　　）

恐ろしさに身がすくんで動けないこと。

ア　　　イ　　　ウ　犬

エ　　　オ　　　カ　猫

キ

【解答】

問1 ⓐ応酬　ⓑ収拾　ⓒ気遣（い）　ⓓ醸成

問2 イ

問3 エ

問4 ア

問5 ウ

【練習問題解答】

①カ　②ウ　③オ　④イ　⑤キ　⑥ア・エ

【50字要約例】

言葉は感情を形成し、内面に優先するが、国語教育関係者は内面が言葉に優先すると捉えているのではないか。（50字）